

# 中国人留学生の生活支援 — ケイパビリティ・アプローチの視点からの事例研究による考察 —

李亭

東京福祉大学大学院社会福祉学研究科

**【背景】**外国人留学生を数多く受け入れている一方で、留学生に対する政策や支援の不備などの課題も多く存在していると指摘された。例えば、外国人留学生に対する就職支援や雇用の促進およびグローバル化支援に総合的に取り組んでいるが、大学や大学院生の生活およびその支援は注目されてこなかった。つまり、外国人留学生の生活支援は留学生支援の課題の一つになっている。

**【目的】**中国人留学生のライフサイクル全体を展望し、谷中輝雄の生活支援の理念に基づいて、外国人ではなく、生活者としての自分らしい生き方の主体的探求を検討しながら、社会側の外的条件と個人側の内的条件に着目し、彼らの生活全般で抱えている課題を明らかにするとともに、ケイパビリティ・アプローチの視点から彼らにおける生活支援について考察することを目的とする

**【対象】**本研究の調査対象者は、中国人留学生 30 名（男性 12 名、女性 18 名）である。調査方法はオンライン・インタビュー調査として、調査期間は 2019 年 11 月から 2020 年 9 月までである。調査は定型質問と挿入質問を加えながら実施した。

**【方法】**調査内容は、対象者の基本属性・日本留学の動機・卒業後日本での滞在理由と帰国理由・日本での生活課題とその対処法・来日前と来日後の（自由・平等・選択・機会・資源・権利）の比較・自己認識などの内容である。データの分析は、事例研究と修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて行った。

**【結果】**事例研究と M-GTA のデータ分析を通して、中国人留学生の基本属性・日本留学の動機・卒業後日本での滞在理由と帰国理由・生活上の苦しみや悩み・来日前と来日後の（自由・平等・選択・機会・資源・権利）の比較・自己認識などの現状を把握し、その背景、経緯、原因を整理し、彼らの生活実態を明らかにすることができた。

**【考察】**ケイパビリティ・アプローチによると、生活の良さは、その人が何をできるか、どんな状態にいるのか、つまり、持っている選択肢の豊かさによって測ろうとする。この意味で、選択肢の幅が広がることで様々な生き方を選択する自由が増すことができる。つまり、ケイパビリティ・アプローチの視点から見れば、中国人留学生の生活や生き方などの不自由を取り除くことで、彼らの自由度を拡大し、同時にケイパビリティも向上させることができる。この立場から出てくる生活支援の対策は、中国人留学生から「価値あるものとする生き方を選択する自由」を奪っている要因を取り除くことである。やるべきことは、中国人留学生の暮らしがどういう点で悪化しているのかを記述することであり、それを機能として理論化し、どの機能が彼らの暮らしにとって不可欠であるかを選択し、それを改善していくことが適切な生活支援対策となる。

**【結論】**中国人留学生は、新しい環境の中でやっていく決意を持つことによって、彼らの日本留學生活に対して積極的な態度をとることができるようになる。一方、現在の状況への対処能力を身につけることによって、より良い感情を持つことができるように導かれると考えられる。また、自由・平等・選択・機会・資源・権利の拡大は、彼らの生活困難や課題を改善し、生きたいと思える暮らしを選ぶ、彼らが追求する目的や価値の達成に繋げることができる。さらに、自分の長所や目標などの自覚は、生活に対する満足度のレベルに影響を及ぼしている。